笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３８２号
平成３０年３月２２日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

変わるための“勇気”

校　長　　鈴木　隆志

光が丘第八小学校の平成２９年度は、本日修了式を迎え明日の卒業式を残すのみとなりました。今年度は、３６名の６年生が巣立ちます。光八小では、学校・家庭・地域のみんなの力で、光っ子たちみんなを大切に育ててきました。この一年、光っ子たちはそれぞれに大きく成長をしました。

でもそれは順風満帆というわけではありません。友達の言動に心を傷つけられた子もいました。わがままな言動でまわりに嫌な思いをさせてしまった子もいました。悩みを抱え心が重たくなってしまった子もいました。いつでもどこでも心穏やかに過ごせるということは、なかなか難しいことではありますが、その時その場でみんなで問題や課題を解決しながら、大きく成長をしています。それぞれに進級・進学するこの春は、光っ子たちにとっても大事な節目の時です。気持ちを新たに新年度を迎えられるよう、準備をしてほしいと願っています。

光っ子たちは、日々成長し、自分を変えていっています。そのためには、“勇気”が必要です。オーストリア出身の精神科医、心理学者、社会理論家であるアルフレッド・アドラー（1870-1937）は次のように語っています。**「“勇気”とは困難を克服する活力のことだ。勇気のない人が困難に出合うと、人生のダークサイドへと落ちていってしまうだろう。」**日々成長し、変わるためには、“勇気”が欠かせません。では、“勇気”はどこから生まれるのでしょうか。辞書等を調べると、勇気は不安感や恐怖から生まれるものとありますが、私は、“勇気”を生み出すのは、子供たちの“夢”や“希望”だと考えています。夢がある子には希望がある、希望がある子には目標がある、目標がある子には“勇気”がある、“勇気”がある子には行動がある、行動がある子には実績がある、実績がある子には成長がある、そして新たな夢をもつ、そんなふうに考えます。

“成功”の反対は、“失敗”ではありません。“成功”の反対は、“何もしないこと”なのです。**「“失敗”と書いて、“成長”と読む。」**は野村克也さんの言葉です。彼は、“何もしないこと”を厳しく戒めています。“勇気がある子には行動がある”ということが、とても大事なことなのです。

「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性」は、小学校で育成すべき大事な資質・能力の一つです。“学びに向かう力”の基にあるのは、自分の気持ちを言う、相手の意見を聞く、物事に挑戦しようとする等、自己統制や好奇心、人と関わる力です。

光っ子たちには、“何もしないで”授業に参加しているだけはなく、教師や仲間とともに授業を創っていくという思いをもってほしいと願っています。学習用具を忘れない、宿題をきちんとやってくる、予習をしてくる、そして、積極的に発言する、自分の力で考える、仲間同士で考えを共有し合い学び合う、何ができるようになったかを振り返る、といった活動を繰り返すことによって、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性」を身に付けてほしいと願います。“勇気”をもち日々成長し、自分を変えていきましょう。新年度の光っ子たちの姿に期待します。

一年間の学校への御理解・御協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。